



5/1

「私たちの手づくりです。どうぞ使ってください！」湯のみ寄贈

沖縄高等特別支援学校授業で制作した“手作りの湯のみ と 込めた想い”を手渡す



沖縄高等特別支援学校窯業コース2年生の仲村拓実さん・安里頼飛さんが、生徒を代表し市役所を訪れ、授業で制作した2種類×10個の蓋つき湯のみを寄贈しました。クラスがひとつになり、様々な試行錯誤を重ねた完成までの期間は約4か月。注目すべきは、2021年8月に大量に漂着し、その除去作業で沖縄県全域を悩ませた「軽石」を「釉薬」として活用したこと。ネガティブイメージが記憶に新しい「軽石」をなんとか有効活用できないかと検討に検討を重ねたそうです。

湯のみを受け取った中村市長は「一つ一つ心を込めて手作りにしてくれたことに感動しました。さっそく本日から使わせていただきます。」と感謝を伝えました。生徒の想いが込められた湯呑みは、市役所を訪れる来庁者との面談等の席で大活躍しています。



なかむら たくみ
仲村拓実さん(2年)の
コメント

制作過程において“贈る相手がいる”と思い浮かべながら制作することがモチベーションになりました。喜んでくださって嬉しいです。



あさとらいと
安里頼飛さん(2年)の
コメント

今回寄贈する湯のみは2種類あります。1種類を渋みのある味わい深い作り(写真右)もう一方を爽やかでポップな作り(写真左)にしました。ぜひシーンに合わせて使い分けてほしいです。

5/12

大迫力と熱気!! 満員の会場が揺れた 第120回春の全島闘牛大会inうるま市



5月12日、「第120回春の全島闘牛大会」がうるま市石川多目的ドームにて開催されました。会場は、多くの来場者で埋め尽くされ、その数は約3,000名に上りました。重量級チャンピオン11戦全勝中の闘牛「新力Baby」が入場すると、その迫力に会場のボルテージは一気に最高潮に達しました。全10試合の白熱した闘いにより圧巻された会場は、拍手と大歓声に包まれました。

また、大会当日、市役所石川庁舎と会場を行き来するシャトルバスを利用した来場者のみが参加できる抽選会も行われ、交通渋滞を避けスムーズな来場ができ気軽に参加できる工夫がされたことで、闘牛イベントのさらなる発展が期待されます。

4/20

県内初!! 水素供給拠点をうるま市へ 沖縄における地産地消型水素モデル構築事業



令和6年度沖縄振興特定事業推進費民間補助金の採択を受け、4月20日「沖縄における地産地消型水素モデル構築事業」の合同記者会見を事業主体者「(株)りゅうせき」と認定市「うるま市」で行いました。

本事業は、「脱炭素社会の実現」や「持続可能な魅力あるまちづくり」を目指す「うるま市・りゅうせき・沖縄トヨタ自動車・昭和化学工業」の包括連携協定のもと、『県内初』の水素供給施設を整備し小規模な地産地消の水素モデルを構築することで、市内の立地企業等の水素利用が促進され、事業活動の安定性が確保されるとともに、地域経済の発展や沖縄全体の脱炭素推進に貢献することが期待されます。